

特別の教科 道徳

児童生徒が道徳的価値の理解を基に、自己の（人間としての）生き方について考えを深める授業づくり

授業づくりのポイント

数字は学習の例と対応

- ① ねらいとする道徳的価値や児童生徒の実態等から、児童生徒に何について考えさせたいのかを教師が明確にして授業を構想する。
- ② 「価値理解」「人間理解」「他者理解」を促す発問等を取り入れることにより、児童生徒が道徳的諸価値を理解できるようにする。
- ③ 登場人物の言動を自分に置き換えて考えさせたり、1人1台端末で集計したアンケートを活用し身近な出来事などを想起させたりして、児童生徒が自分との関わりで考えることができるようにする。
※ ____ は小学校、（ ）は中学校
- ④ 児童生徒の実態に応じて、板書や発問等を工夫するとともに、他者対話したり協働したりして様々な考えに触れる機会を設定することにより、多面的・多角的に考えることができるようにする。
- ⑤ 自分自身を振り返ったり、目標を見付けたりする場面を設定することにより、児童生徒が、自己の（人間としての）生き方について考えを深めることができるようにする。
- ⑥ 児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているかという点を重視して学習状況を見取り、評価につなげる。

異なる考えに接し、多面的・多角的に考え協働的に議論する学習の例

小学校第6学年 主題名「誠実に生きる」『正直、誠実 A-（2）』

◇教材名 「手品師」

◇本時のねらい 誠実に生きることは、相手のためだけではなく、自分自身の生き方に関わるものであることを自覚し、誠実に生きようとする心情を育てる。

<あらすじ> 有名な手品師になることを夢みる男が、男の子との約束を果たすか、チャンスである大劇場での公演の誘いを受けるかどうかで葛藤する。最後には、男の子との約束を果たすことを決め、男の子の前で素晴らしい手品を演じた。

学習活動

（○は発問例）
（◎は主発問例）

<導入の場面>

本時の道徳的価値に関わる事前のアンケートを基に問題意識をもつ。

<展開の場面>

教材を読み、話し合う。

○練習に励んでいるとき、男の子と約束したときの手品師の気持ちを考えましょう。

◎あなたなら、大劇場のステージに立って手品をしますか。それとも、男の子の前で手品をしますか。

○誠実な生き方とはどんな生き方なのでしょう。

<終末の場面>

本時の学習を基に自己を振り返り、考えたことを友達と交流する。

クラスの子どもたちは、相手のことを大切にできる子どもたちだけれど、自分のしたいことを後回しにしてしまうことがある。そのため、自分に対して嘘偽りのない生き方にも気付いてほしい。



T : あなたなら、大劇場のステージに立って手品をすることを選びますか。それとも、男の子の前で手品をすることを選びますか。

大劇場
自分の夢
チャンスを
逃したくない
迷い
約束が優先
男の子を笑顔
男の子

S1 : 最初にした約束だから男の子との約束を守ります。
S2 : 夢に向かって練習に励んできたのだから、大劇場のステージに立つことを選びます。

S3 : 私はまだ迷っています。なぜなら、男の子との約束も自分の夢もどちらも大切だからです。

T : 手品師は、男の子の前で手品をすることを選びましたね。皆さんのアンケートでは、誠実とは相手のために行動できることとありましたが、自分の夢を叶えようとするのは誠実とは言えないのでしょうか。皆さんは、どう思いますか。

S4 : 手品師は、自分の夢を叶えるために精一杯努力してきているので、自分の夢を選んだとしても誠実な人と言えらと思います。

S5 : 私、男の子のことも自分の夢のことも大事にしたいという思いをもった上で決めたことなので、誠実な人と言えらと思います。

T : どちらを選んでも、誠実であるということは、S1さんからS5さんの考えに、共通点がありそうですね。何か共通することはありますか。

S6 : 相手に対しても自分の夢に対しても、真剣に向き合っているところが共通しています。

【評価の視点】

- ・主人公の気持ちや行為について考えることを通して、誠実に生きることについて多面的・多角的に考えている。（発言）
- ・誠実に生きることについて、自分との関わりで考えている。（発言、ワークシート）

内容項目に含まれる道徳的諸価値に関わる事前アンケートで把握した実態を踏まえて発問を工夫することにより、児童が道徳的価値に向き合い、多面的・多角的に考えることができます。
②④

児童の発言を生かしてゆさぶりの発問や追発問を行うことで、児童が道徳的価値の理解を深め、自分との関わりで考えることができます。
②③

児童一人一人の深い学びにつなげるために、考えの共通点を見付けたり、児童の発言の真意をみんなで考えたりできるようにします。
③⑤

評価する場面や視点を明確にし、児童の発言や記述から変容を見取り、評価につなげます。
⑥